

## 29M-am07

*Cordyceps militaris* 培養物のウイルス感染症に対する評価

○太田 裕子<sup>1</sup>, 李 貞範<sup>1</sup>, 林 京子<sup>2</sup>, 藤田 章夫<sup>3</sup>, 朴 東基<sup>4</sup>, 林 利光<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>富山大院薬, <sup>2</sup>富山大院医, <sup>3</sup>第一薬品工業, <sup>4</sup>韓国建国大)

【目的】最近、感染症が世界的に大きな問題となっているが、その一つの要因として免疫機能の低下した人々の増加が考えられる。これらの人々は感染症にかかり易く、しかも重症化しやすいという状況にある。したがって、本来備わっている生体防御機能を増強することにより、感染症の予防や速やかな病原体の排除が可能になると考えられる。我々は、薬食同源の視点から、食物を利用して生体防御機能を高めることは、感染症克服の一つの重要な戦略であると考え、「食物を対象とした感染症に有用な物質の探索」を行っている。前回の年会（仙台）において、大豆を基材として培養した *Cordyceps militaris* から分子量約 57 万の酸性多糖体（cormilan）を単離し、それが NO 産生促進効果を示すことを報告した。<sup>1)</sup> 今回、cormilan を含むエキスの in vivo での抗 A 型インフルエンザ活性を評価すると共に、cormilan について、さらに詳細な構造と作用機序を検討したので報告する。

【方法】*C. militaris* 培養物熱水抽出エキス由来高分子量画分（CH）を A 型インフルエンザウイルス感染モデルマウスに経口投与し、ウイルス量や中和抗体価を測定した。また、cormilan の iNOS や各種サイトカインの発現に対する効果を、マウス由来マクロファージ様細胞（RAW264.7 細胞）を用い、RT-PCR 法で検討した。

【結果・考察】ウイルス感染モデルマウスに CH を投与したところ、肺や気管支洗浄液中のウイルス量は減少した。また、感染 7 日目には、マウス血清中の中和抗体価が増加した。一方、CH から分離・精製した cormilan は iNOS mRNA の発現を濃度依存的に誘導することが認められた。現在、cormilan の各種サイトカインの発現に対する効果を検討中である。

1) 日本薬学会第 126 年会要旨集 4, p 97, 仙台 (2006).